

## アイデア部門 入賞

茨城工業高等専門学校 Bad eyes  
「Food Bridge」



【メンバー】

篠田 夏蓮  
吉田 苺香

### ☆作品概要☆

飲食店で発生する食品ロスと、子ども食堂の食材不足を解決するAIマッチングアプリ。飲食店が登録した余剰食材情報と、子ども食堂側の検索条件をAIが照合し、最適な組み合わせを提案。LINEを活用して通知や調整をリアルタイムで行い、効率的な食材共有ができる仕組みの構築を目指す。

### 1. コンテスト応募の動機

私は、食べ物が捨てられることが当たり前になりつつあり、その状況に慣れてしまっている自分の感覚にも危機感を覚えました。そこで、食品ロスを少しでも減らす方法はないかと考えるようになり、AIを活用したマッチングアプリのアイデアを考えました。大まかな構想は頭の中でできていましたが、このコンテストをきっかけに、より明確な仕組みや具体的なアプリのイメージとして形にしたいと考え、応募しました。

### 2. 開発秘話

特に悩んだのは、余剰食材と子ども食堂のニーズをどのように効率よく結びつけるかという点でした。単に情報を共有するだけでは、食材の種類や量、必要なタイミングが合わない可能性があります。そこで、飲食店が登録した余剰食材の情報と子ども食堂の条件をAIが照合し、最適な組み合わせを提案する仕組みを考えました。また、連絡や調整をスムーズに行うため、普段から利用者が多いLINEを活用する形にしました。

### 3. 感想等

今回の取り組みを通して、自分の考えていたアイデアをAIを活用しながら整理し、形にしていく過程がとても楽しかったです。AIに質問したり文章を整えたりする中で、考えをより分かりやすくまとめることができました。また、AIの使い方についても以前より理解が深まり、少し上達できたように感じました。